



上向台小だより

4月号

西東京市立上向台小学校

令和6年4月6日

<http://www.nishitokyo.ed.jp/e-kamimukoudai>

一人一人の子どもを主語にする学校へ

～一人一人の多様な幸せ (well-being) を実現するために～ 校長 酒見 裕子

春のやわらかい光が溢れる中、子どもたちの入学と進学を祝うかのように、南門にある桜が見事に咲き誇っています。

今年度は、新たに118名の新1年生を迎え、児童数721名、23学級で令和6年度がスタートしました。お子様の御入学、御進級、おめでとうございます。

入学・進級にあたり、子どもたちは期待に胸を膨らませていることと思います。今年度も子ども一人一人を大切に、そして保護者の皆様、地域の皆様の期待に応えられるよう、教職員一同、教育活動推進に最善を尽くしてまいります。

【一人一人の多様な幸せ (well-being) を実現するために】

令和4年6月2日に、内閣府 総合科学技術・イノベーション会議による「Society5.0の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ」の最終とりまとめが公開されました。

これまでの大量生産・大量消費の工業化社会では、同質性や均質性が求められ、一斉授業によって、「みんな一緒に、みんな同じペースで、みんな同じことを」学習することが推奨されてきましたが、これからの時代は、新たな価値創造やイノベーション創出に向けて、多様性を重視した教育・人材育成のために、「それぞれのペースで自分の学びを行うこと」や「対話を通じて『納得解』を形成すること」が提起されています。

これまでの社会構造の中で行われてきた「同調圧力」や「正解主義」への偏りから脱却し、子ども一人一人の学ぶワクワク感、「好き」や「夢中」を手放さない学びをどう実現していくかを具体的に進めるロードマップも示されました。

もちろんこれは学校内だけの問題ではなく、社会構造全体を俯瞰しての提案です。そして、「これからは人と違う特性や興味を持っていることが、新しい価値創造・イノベーションの源泉」だとして、「一人一人の多様な幸せ (well-being) を実現できる、創造性あふれる社会に向けた学びへの転換が必要」と結論付けています。

私たちは、一人一人、認知の特性や関心の違いがあります。視覚優位な人もいれば、聴覚優位な人、言語優位な人もいます。計画的に学ぶ人もいれば、興味や関心が拡散する人、特定の分野に尋常ではない集中力を示す人もいます。子どもたちも同様です。発達障害の困難さに向き合っているお子さん、特定の分野に特異な才能をもつお子さん、日本語指導が必要なお子さん、どうしても教室に行くことができないお子さん……など多様な子どもたちがいます。

このような多様な子どもたちの学びを支えるに当たっては、認知の特性や関心の違いを前提として、全ての子どもたちに共通している「知りたい」、「学びたい」という欲求を刺激し、その子の「学びの扉」が開くように働き掛けることが必要です。そのためにも、今年度も引き続き、「一人一人の子どもを主語にする学び」を大切にしていきたいと思います。

そして、どのように教えるかという教授法だけでなく、学習する子どもの視点に立ち、子どもたちの具体的な学びの姿をイメージしながら、日々の教育実践や教育研究を推進していきます。

社会や未来は与えられるものではなく、一人一人の子どもたちが作り出すものです。子どもたちの学ぶ意欲を引き出し、生涯を通じて学び続けていく力を育てられるようにしてまいります。

また、今年度から本校では、東京都教育委員会「デジタルを活用したこれからの学び研究校」及び「小学校教科担任制等推進校」、「校内別室指導支援員配置事業実施校」に指定されました。

児童一人一人の学習進度や興味・関心に応じて学ぶ方法等を選択できるような環境を整えるなど、自立した学習者の育成に向けた取組や、よい変化を起こそうと、自分で課題を設定し振り返り、責任をもって行動する力の育成、さらに高学年では、教科担任制を実施し専門性の高い教科指導を進めてまいります。

これまでの上向台小学校が築き上げてきた伝統と特色ある教育活動に加え、新しい時代が求める質の高い学びの実現に向け、教職員一人一人のそれぞれのよさを発揮できるようにするとともに、保護者や地域の皆様と共に、子どもたちを育ててまいりたいと思います。

今年度も本校の教育活動への御理解と御支援をどうぞよろしく願いいたします。



←画像をクリックすると、御覧いただけます。御興味のある方は御覧ください。

(紙面で御覧いただいている方は、二次元コードから御覧いただけます。↑)

子供たちが多様化する中で、紙ベースの一斉授業は限界

2017年改訂により質実・能力実現の教育課程へと転換

多様な子供たちに対しICTも活用、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に実現

子供主体の学び

個別最適な学びと協働的な学びを一体的に実現

教育による一斉授業

学習に開眼なく

一斉授業で

個別最適な学び

教科担任制

Coaching

多様な人材・協働体制

内閣府 総合科学技術・イノベーション会議 教育・人材育成ワーキンググループ